



ちょっとした困りごとを 地域の力で解決する仕組みづくり



「買い物に行きたいけれど、ひとりで店までは行けない…」
三田市社協では、普段の暮らしの中で起こるこのような“ちょっとした困りごと”を地区内で支え合えるよう、住民によるさまざまな活動を支援している。

地域の困りごとを知り、解決する仕組みづくりをみんなで考える場として、ささえあい隊「まごの手活動養成講座」を開催しているほか、地域での生活課題を解決していくための地区別計画策定を住民とともに進め、それぞれの地区に合わせた課題解決の仕組みづくりの支援を行っている。

活動の中で

三田市の本庄地区では、講座修了生により「まごの手本庄」というグループが立ち上がり、通院や買い物の付添い・代行を行っている。また、利用者との関係性が深まる中で、電球を一緒に交換するなど、一人一人の生活に寄り添いながら、活動の幅を広げている。



どれにしようかな〜♪

藍地区では、「ふれあい活動推進協議会※」の活動の中で、「地区内には一人で外出しにくい高齢者の方が多く暮らしている」という課題について話し合い

を重ね、外出支援を行うボランティアグループ「アユート」が生まれた。毎週2回、住民による相談窓口を開設し、ボランティア活動を行っている。活動者の一人からは「自分一人では限られているが、一緒に活動する仲間がいるから続けられる。自分たちの活動で誰かに喜んでもらえることが一番うれしい」と話す。



ボランティアを始めて、近所に知り合いも増えました！

※ふれあい活動推進協議会…身近な生活の場で「誰もが安心して豊かに暮らす地域づくり」を目指し、住民が力をあわせ、専門機関と協力しあいながら進める、住民自身による自主的な活動。市内9地区に協議会が設置されている。

活動のポイント 身近な暮らしの場での住民による課題発見から支え合いの活動へ

取材を終えて

取材の日は相談窓口の開所日で、電話がひっきりなしに鳴っていました。どうすれば解決できるかを活動者同士と一緒に考え、支え合い活動が展開されています。ある方が「やってみなければ分らんことがたくさんある。ずっと住み続けたいまちにしたいんや」と、生き生きとしておられる姿が印象的でした。このような支え合い活動は、住民と専門職の連携が大切です。課題をキャッチし住民が活動を続けられる仕組みの必要性を感じました。

会長から

三田市社会福祉協議会 会長 中後 仁美

三田市では現在、地域福祉計画(市)と地域福祉推進計画(社協)の一体的な策定を進めています。また、一昨年度より小学校区ごとに住民座談会を開催して、その結果を踏まえた地区別計画の策定を推進してきました。これら3つの計画が連動しながら地域福祉活動の展開を図っていくこととなります。

そして、これからも「まごの手活動養成講座」参加者が取り組まれたように、地域の現状と生きづらさを抱える人たちへの共感を通じて、身近な地域の暮らしをより良くするための活動が実践できるよう支援に努めていきます。

